

2014年度自己点検・評価報告書(シート)

【目標の進捗状況(達成度)評価・報告】(最終年度)

《大学》

担当(記述)部局は、 ☆印の箇所を記入してください。

I. 評価項目・要素と担当部局

本報告書(シート)の自己点検・評価項目・要素と担当部局は次のとおりである。

対象部局	教職教育研究センター(教務機構)
大項目	4 教育研究組織
中項目	
小項目	4.0.1 大学の学部・学科・研究科・専攻および附置研究所・センター等の教育研究組織は、理念・目的に照らして適切なものであるか。
要素	教育研究組織の編制原理 理念・目的との適合性 学術の進展や社会の要請との適合性 (KG1)研究活動の状況
小項目	4.0.2 教育研究組織の適切性について、定期的に検証を行っているか。
要素	

II. 目標の進捗状況(達成度)評価と報告【2014.4.30現在】

《進捗状況(達成度)評価》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況(達成度)の自己評価を行っている。進捗状況(達成度)評価は、目標の2014年4月30日現在における進捗状況(達成度)の評価(2013年度1年間の活動評価ではなく、2014年4月30日現在で目標がどこまで進んだかの評価)であり、A、B、C、Dの4段階で行ったものである。A、B、C、D評価の基準は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
 B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
 C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
 D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗状況(達成度)評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. 本学における教員養成の望ましいあり方という観点から、教育学部との関係を明確化するとともに、同学部との連携を図る。	→教員養成を主たる目的とする、所謂目的学部としての教育学部と、一般学部の教員養成を担当する教職教育研究センターという棲み分けを明確にするとともに、実務面での連携が可能なところは連携を図る。	B	B	B	B	B
2. 教職課程履修者数の急増と業務内容の多様化による過重負担を軽減するために、早急に上ヶ原キャンパスの教育研究組織の改善と神戸三田キャンパスの格差是正を図る。	→上ヶ原キャンパスに専任教員の増員。また神戸三田キャンパスに専任教員及び専任事務職員を配属することによる教育研究組織の充実。	D	D	D	D	C
3. 文部科学省の実施視察に向けて、教職課程の全学的・組織的な指導体制を強化する。	→センター評議員会等、教職に関する全学的協議体の活性化(本学における教員養成の望ましいあり方や教職教育研究センターと教育学部との関係等について全学的立場から検討する機会を設ける等)と、学長府との連携の強化(定期的な情報交換の場の設定等)による全学的・組織的指導体制の整備。	B	B	B	B	B
2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	2009	2010	2011	2012	2013
	→					
	→					

☆

《進捗状況(達成度)報告》 担当(記述)部局は「指標」に基づいた報告をしてください。

上記で自己評価した目標の進捗状況(達成度)について、次のとおり説明・報告する。

目標1	B	Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 教職教育研究センターと教育学部との関係の連携は、2013年度に実施された文部科学省の視察、及び教育学部の再課程申請を契機に、全学的な協力の下で、徐々に深まっている。	☆
		Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 連携は深まったが、関係の明確化に関しては全学的にはさらに深めることが長期的な課題である。	☆
		Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 組織的な問題でもあり、時間をかけて関係部署を密にして、互の立場を尊重しながら徐々に深めていく必要がある。	☆
		その他	
			☆
目標2	C	Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 神戸三田キャンパスとの格差是正に関しては、これまで要求してきた人員増が認められた(事務職員と専任教員のそれぞれ1名)。	☆
		Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 事務的には増員職員は2014年4月より執務しており、これまでより学生の指導の点でかなり効果がある。専任教員は2014年度秋学期からの執務であるが、これまでの格差はかなり是正されることになる。課題として、業務の複雑さに早く慣れてもらうことが挙げられる。	☆
		Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 文部科学省に対応するための関係法令条目についての十分な理解をもらい、教職教育研究センター内での業務の引き継ぎや、業務の確認を遺漏なく進める必要がある。	☆
		その他	
			☆
目標3	B	Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 文部科学省の実施視察は、教職課程の全学的・組織的な取り組みの結果、2013年7月に無事終了した。	☆
		Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 文部科学省からは、軽微な問題点を指摘されたが、「全般的に問題なく行われている」というコメントがあった。これは、教職教育研究センターが中心となり関西学院大学の教職課程を運営してきた成果であろう。	☆
		Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 今後とも、教職教育研究センターは関西学院大学の教職課程の取りまとめ役として、全学的な理解を得つつ、ますます発展していきたい。	☆
		その他	
			☆
備考			☆